



NOMURA



配布資料

(社)日本証券アナリスト協会
GIPSセミナーシリーズ 第2回

グローバル・ベースの GIPS準拠展開

2010年9月29日

野村アセットマネジメント株式会社

執行役員 寺崎 宏

I. カンパニー・プロフィール

II. なぜグローバル化(One Firm)が必要だったか？

III. 準拠のための組織・体制整備

IV. コンポジットの運営と管理

V. GIPSの活用と今後の展開

I. カンパニー・プロフィール

経営ビジョン

ワールドクラスの競争力を備えた
金融サービスグループを目指す

変化を作り出すことで、内外の資本市場の
発展に寄与し、成長機会を創造する

「日本を含むアジア」と欧米との
架け橋となることを志向する

キーワード

変化を作る

ワールドクラス

スピード

野村グループとアセットマネジメント部門

ホールセール
部門

国内営業部門

野村アセットマネジメント

NFR&T

PEFRI

野村アセットマネジメント部門

NCRAM

NBL

NFR&TA

I-iii. カンパニー・プロフィール

NOMURA

会社概要

本 社	東京都中央区日本橋一丁目12番1号
設 立	1959年(昭和34年)12月1日
営業開始日	1960年(昭和35年)4月1日
資本金	171億8,035万円
株 主	野村ホールディングス株式会社
事業内容	金融商品に関する投資一任業務・投資顧問業務 証券投資信託に係る信託財産の運用、委託者指図型投資信託の受益権の募集 又は私募



本社

会社沿革

1981年 野村投資顧問(株)設立

- 1984年 投資顧問業務の第一号兼業承認を得る
- 1995年 投資一任業務認可取得

1959年 野村証券投資信託委託(株)設立

- 1987年 投資顧問業者として登録、並びに一任業者として認可を取得/国内公的年金の運用開始
- 1990年 国内私的年金の運用開始

1997年10月 野村アセット・マネジメント投信(株)発足

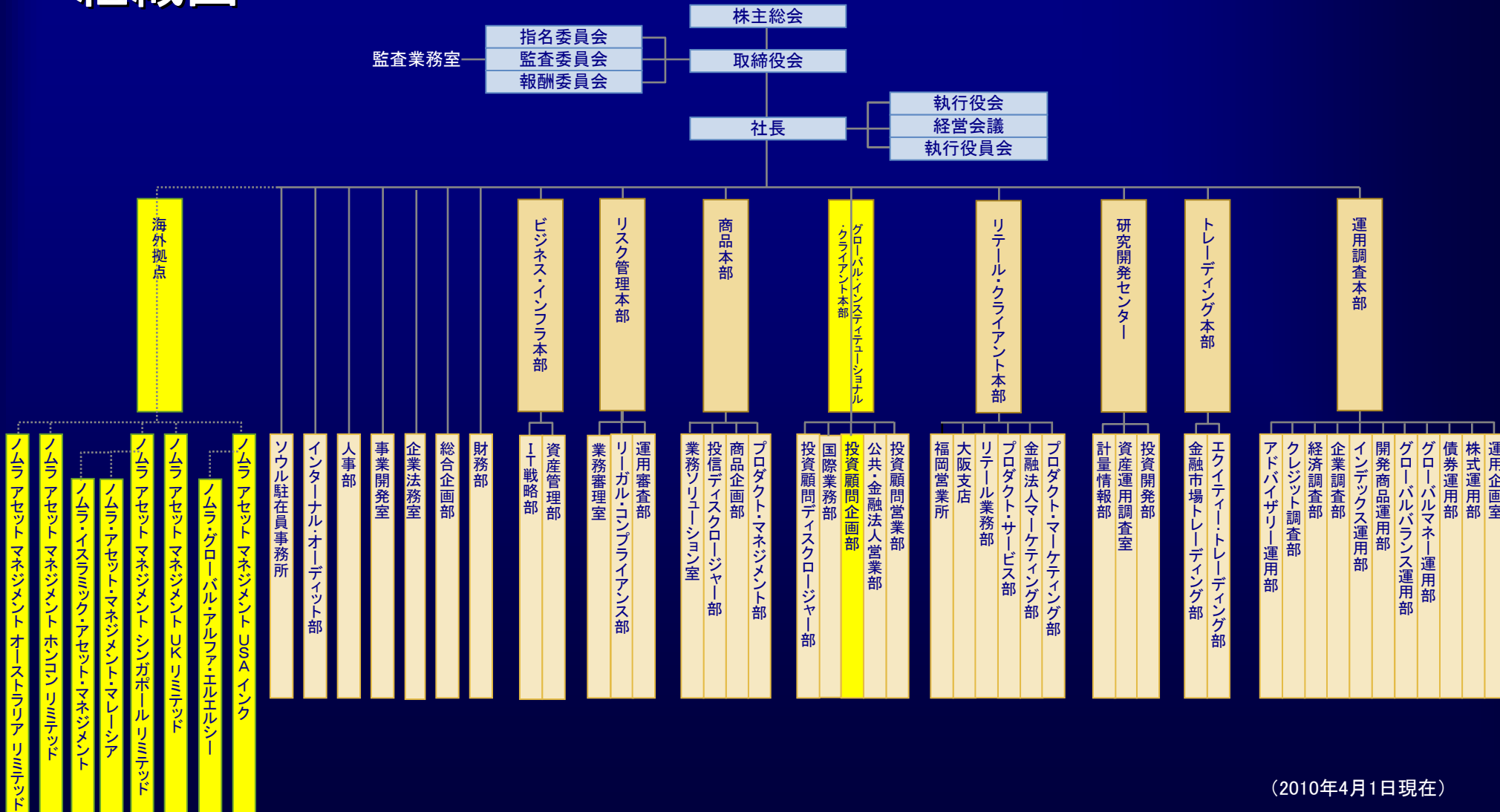
2000年11月 野村アセットマネジメント(株)へ社名変更

1997年10月、野村証券投資信託委託株式会社(1959年設立)と、野村投資顧問株式会社(1981年設立)が合併し、日本を代表する資産運用会社として優れた実績を築いてまいりました。また、早くから運用と顧客基盤のグローバル化に取り組み、アメリカ、ヨーロッパ、アジア等、海外への積極的な展開を図っています。アセット・マネジメント部門: 1565名体制 (2010年8月末)

I-v. カンパニー・プロフィール

NOMURA

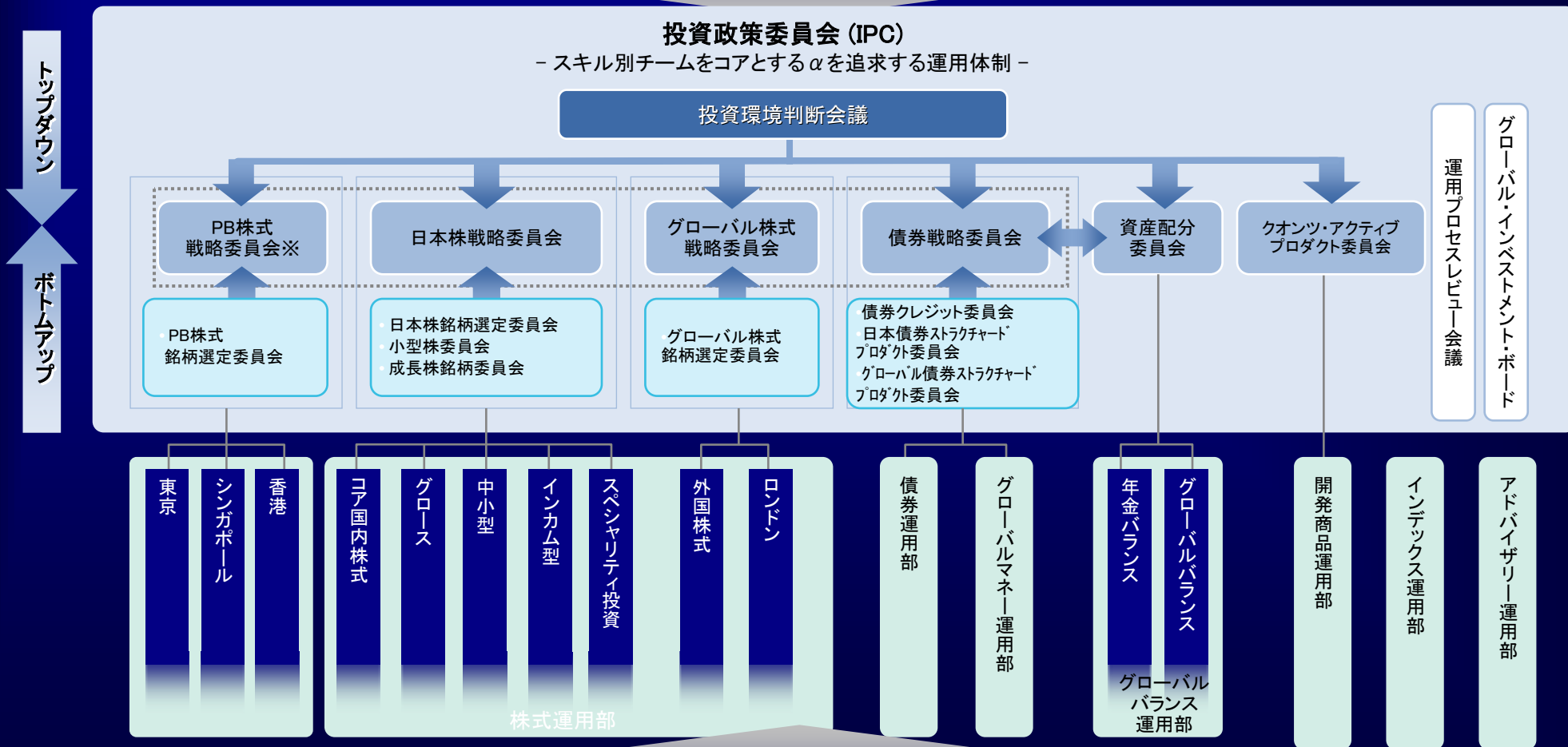
組織図



(2010年4月1日現在)

運用プラットフォームの概要

経済調査・クオンツ分析

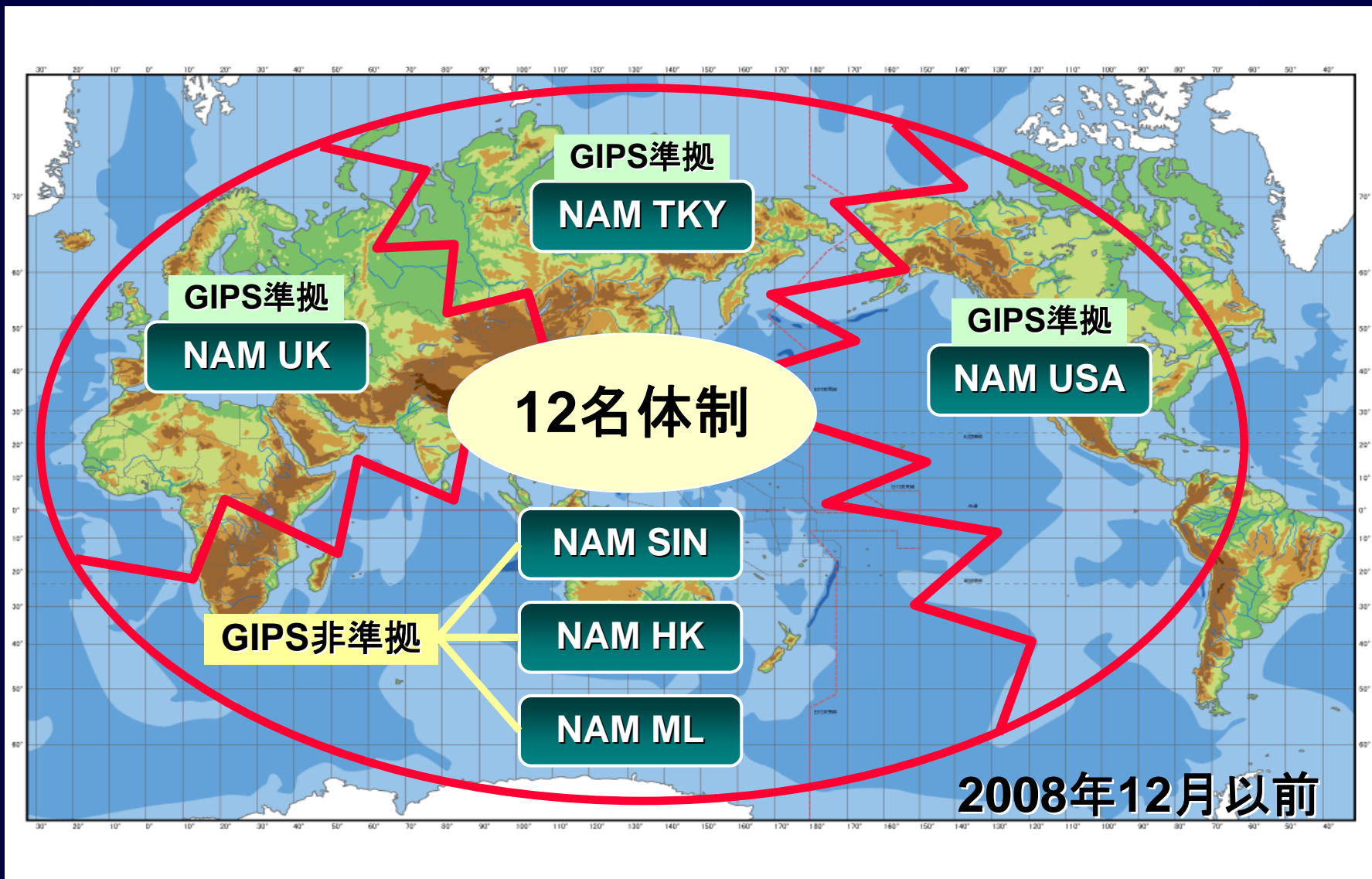


企業調査・クレジット調査・海外拠点調査

※PBとは、パシフィックベースンの略称です。

II. なぜグローバル化(One Firm)が必要だったか？

II-i. なぜグローバル化(One Firm)が必要だったか? NOMURA



II-ii. なぜグローバル化(One Firm)が必要だったか? NOMURA

● 問題の顕在化

- ローカル・ニーズのみで商品提供
(グループ内で商品知識が未共有)
- 東京と海外拠点で重複作業
- 検証者が異なり、コスト増
- アジア拠点のGIPS非準拠
- 豊富な国内籍投信の運用エンジンが輸出不能
- 東京、ニューヨーク、ロンドンのトリプル・スタンダード

II-iii. なぜグローバル化(One Firm)が必要だったか? NOMURA

- グローバル商品戦略

- グローバル商品戦略の礎
- グローバル商品戦略を実行するツール

- グローバル商品ブランド力

- 高品質な野村の商品ブランド力を維持
- 野村のブランド力を世界レベルで展開し共有

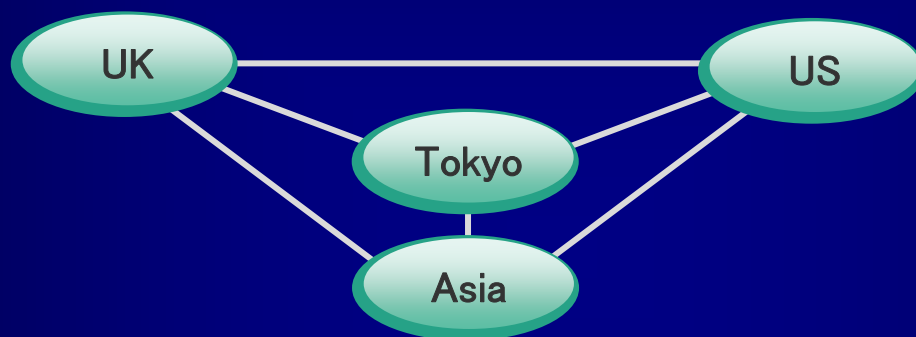
- グローバル商品プラットフォーム

- 世界標準で運用商品のGIPSプラットフォームを共有
- GIPSのプラットフォームを使い世界に運用商品を提供

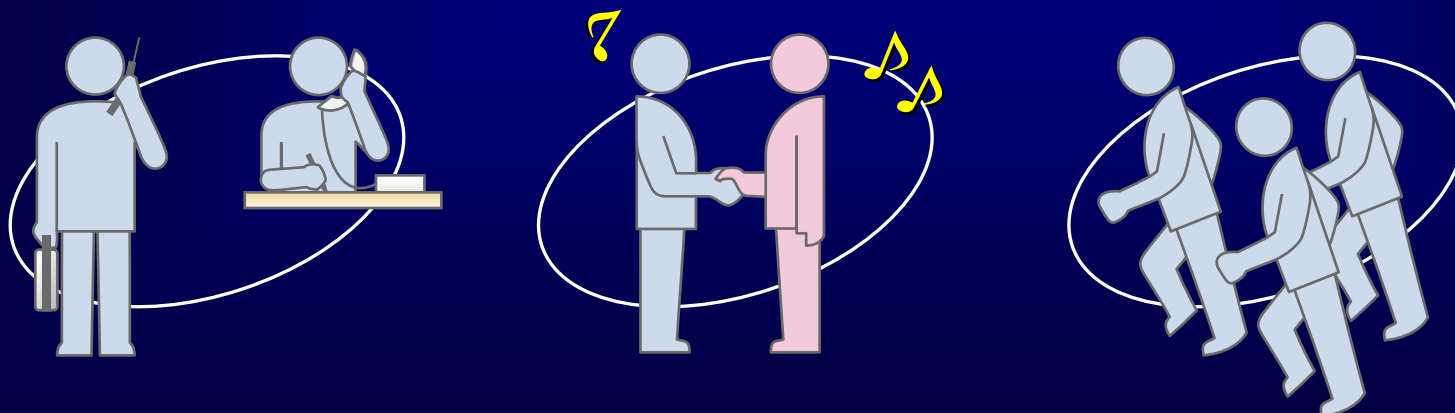
II-iv. なぜグローバル化(One Firm)が必要だったか? NOMURA

国内外共通のプラットフォーム

戦略的商品のパフォーマンス情報を全拠点を共有する基盤



投信・顧問の垣根無く魅力ある商品をグローバルに販売



III. 準拠のための組織・体制整備

III-i. 準備のための組織・体制整備

準備事務局
発足

NAM-Global 対象口座・ファンド数
(投資顧問)・・・600:東京・UK・US・HK・SIN・MY
(投資信託)・・・1200:国内籍・外国籍

フェーズ1 終了
NAM-Asia
GIPS準拠表明

第一回GIPS
管理委員会
開催

フェーズ2 終了
NAM-Global
GIPS準拠表明

Aug. 2008

Dec. 2008

Feb. 2009

Dec. 2009

- NAM-Asia
- アジア3拠点の顧問口座コンポジット化と東京コンポジットへの統合 (東京、シンガポール、香港、マレーシア)

+

- NAM-USAとNAM-UK
コンポジット統合
- 国内外籍投信のコンポジット化

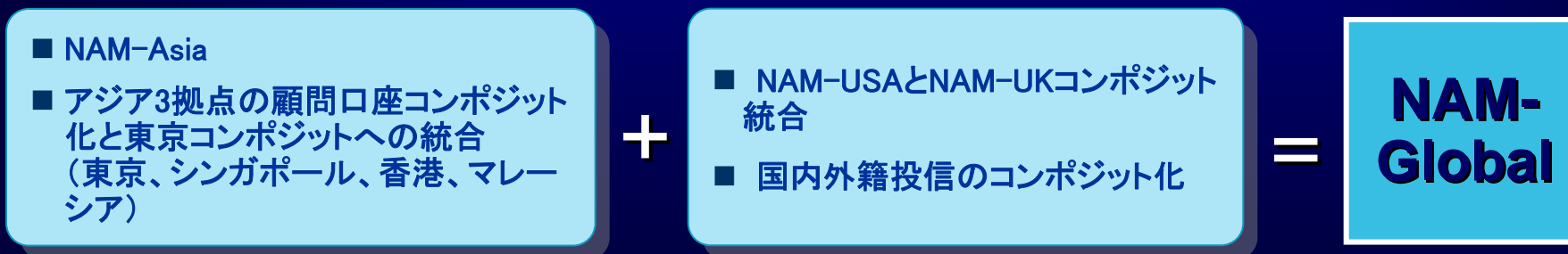
=

NAM-Global

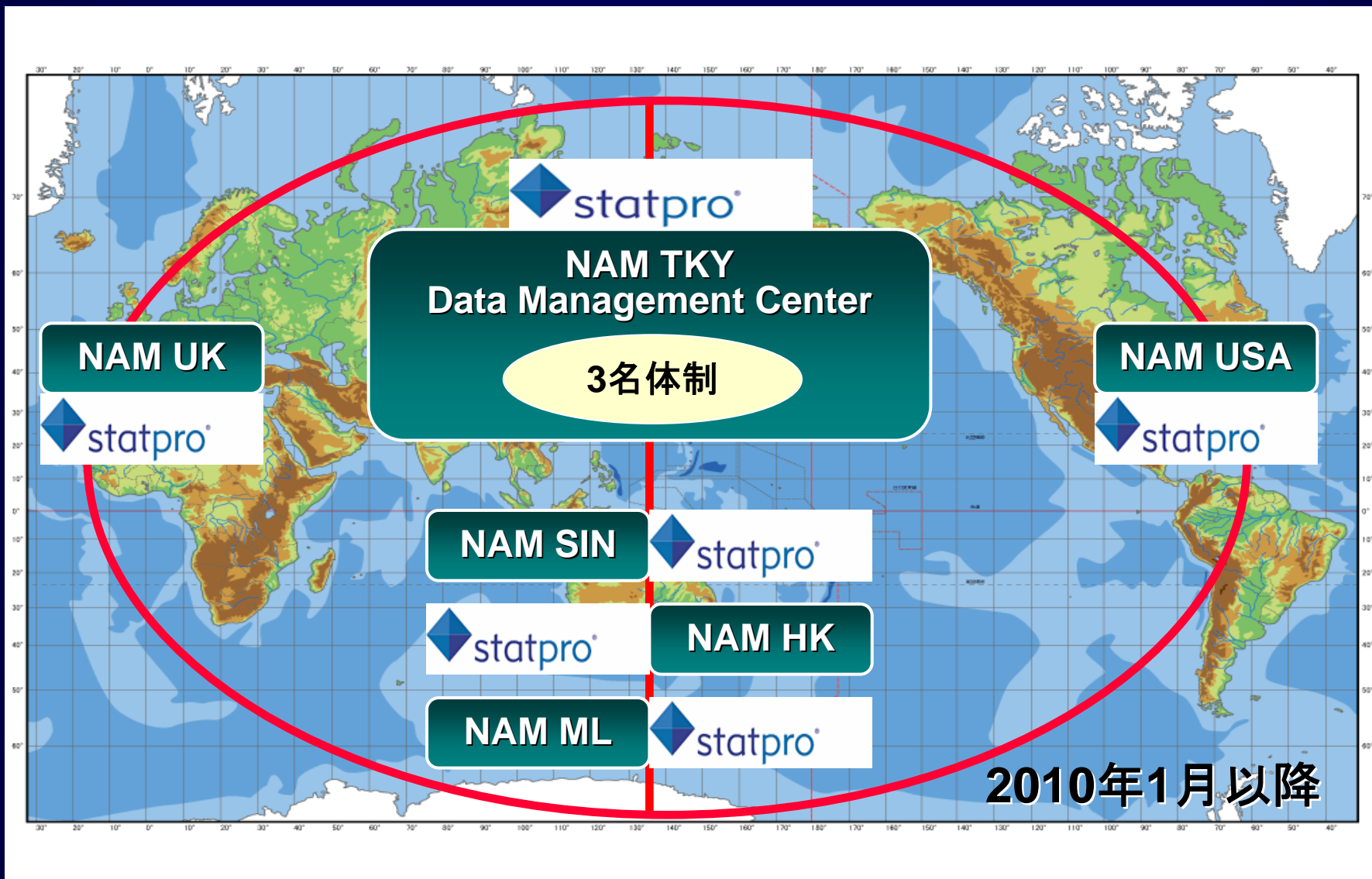
III-ii. 準備のための組織・体制整備

NOMURA

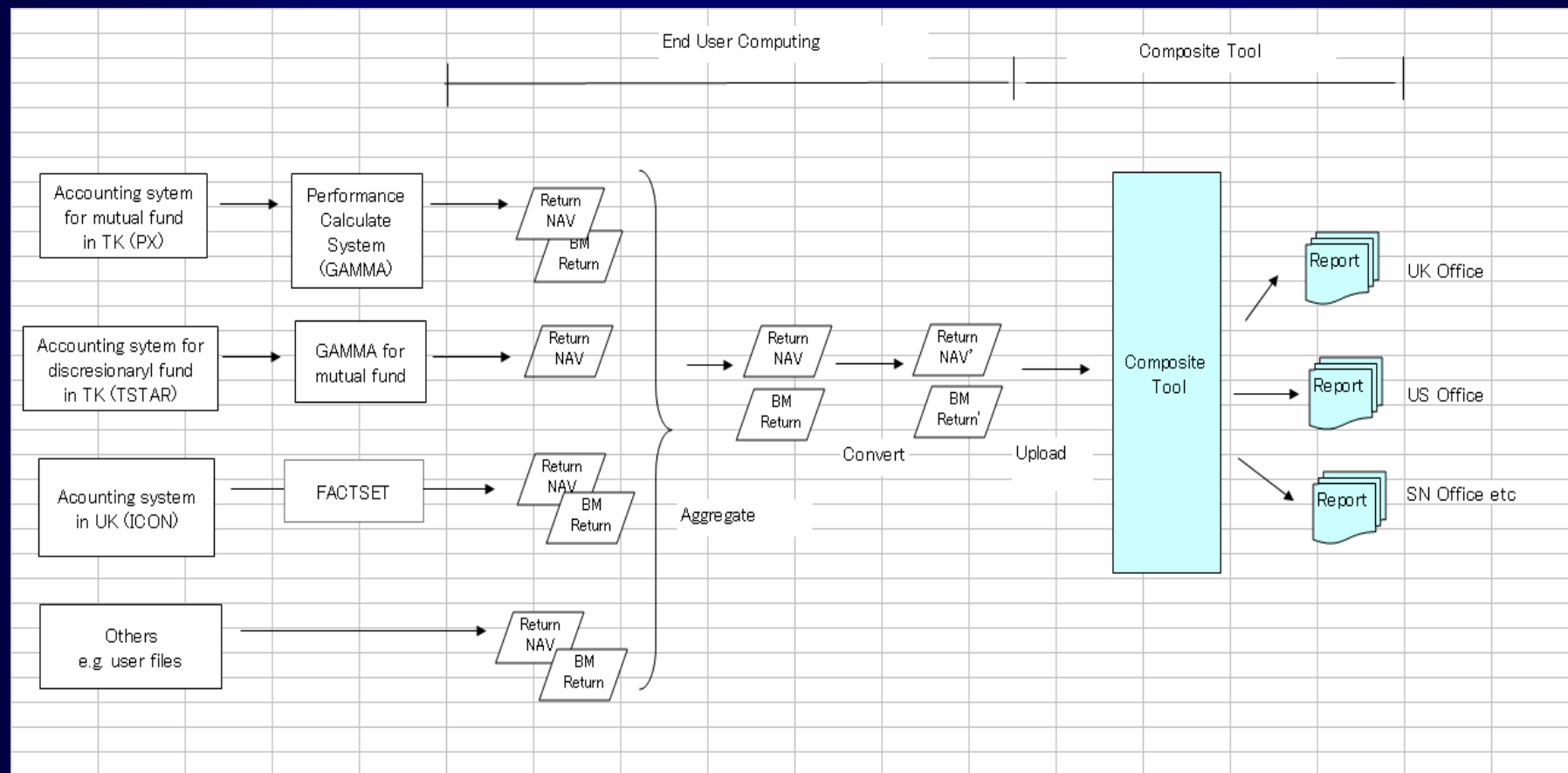
NAM-Global 対象口座・ファンド数
(投資顧問)・・・約600:東京・UK・US・HK・SIN・MY
(投資信託)・・・約1200:国内籍・外国籍



III-iv. 準拠のための組織・体制整備



● インターフェース開発



● GIPS管理委員会の立ち上げ

1. 目的


- GIPSの全拠点の権限を集約
- GIPSに準拠するパフォーマンス提示の品質の維持管理
- GIPS準拠の適正さの監視と業務健全性の確保

2. 運営・決議事項

- 委員は全拠点から選出
- 原則四半期開催
- 会社(Firm)の定義変更
- 四半期、年間コンポジット・パフォーマンスの結果
- 外部検証手続きの変更等GIPS運営に関する事項
- コンポジット新設、統廃合、各口座・ファンドのコンポジットへの組み入れ、変更
- GIPS関連ドキュメントの統制

- 海外拠点との連携
 - 各準拠提示資料は原文として英語を採用
 - 各準拠提示資料は世界共通
(ローカル・ルールに基づく開示事項除く)
 - 再一任口座、マスター・フィーダー・ファンドの把握
 - 規程・手続集(P&P)の統合
 - 異なるポートフォリオ・アカウントティングシステム
 - 月次データベースの蓄積
 - 海外拠点固有のマネージメント把握(ガイドライン)
 - SEC、FSA (MiFID)とGIPS上の広告ガイドライン

- 国内籍投信の統合

- 1,200本の国内籍投信(2005年1月～)
- Gross-up 処理 (NAV  NAV + Fee)
- 各投信は基本固有マンデート (マンデート別の仕訳)
- 国内籍投信の固有ルールと顧問口座のプラクティス
- マザー・ベビーファンドの取り扱い
- ファンド・オブ・ファンズの利用

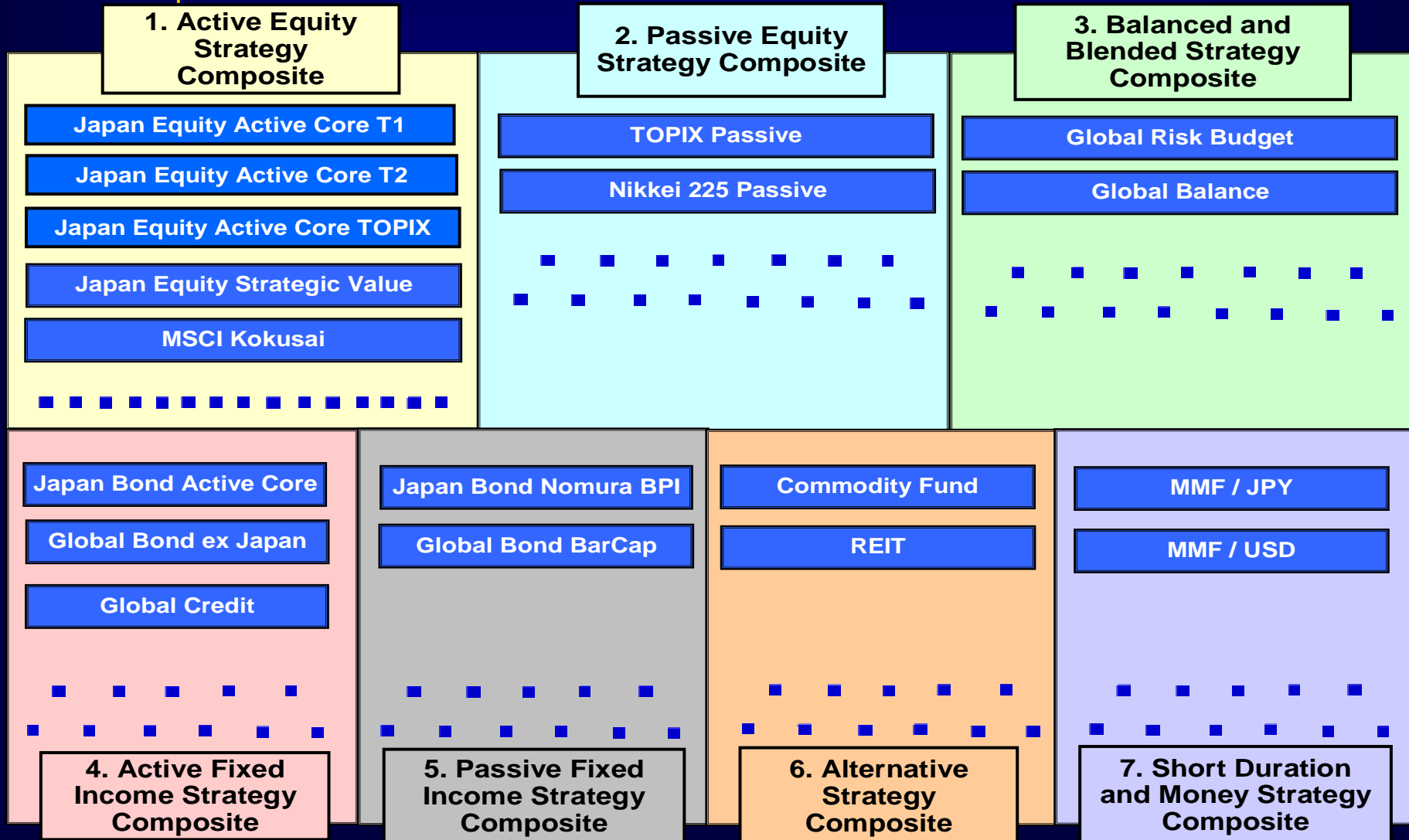
IV. コンポジットの運営と管理

- GIPS準拠のコンポジット・パフォーマンス情報の提示に関するガイドライン
 1. 目的
 - 当社及びNAMグループ会社から外部に供するパフォーマンス実績データの統制を図る
 - 外部提出資料の品質と顧客の信用を高める
 2. パフォーマンス実績データの社内使用基準
 - GIPSパフォーマンスの社内使用基準原則
 - 同一プロダクトのパフォーマンス実績統一原則
 3. GIPS準拠のパフォーマンスを管理運営する体制
 - GIPS管理委員会の役割明確化
 - GIPS管理委員会事務局の役割明確化
 - 海外現地法人のGIPS管理ツール使用方法



IV-iii. コンポジットの運営と管理

Note: Blue squares are sample marketable composites.

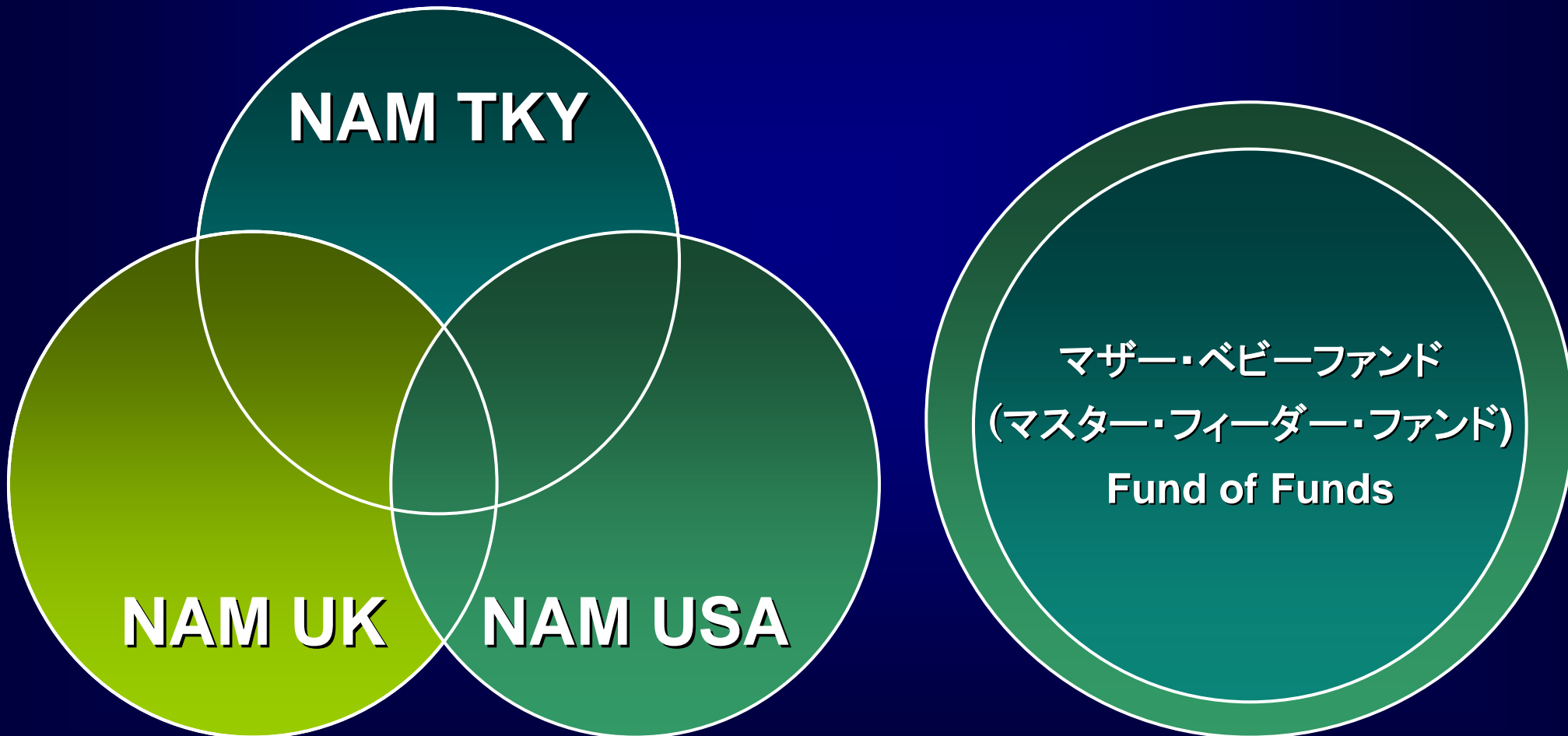
The Image of NAM-Global Firm



- グローバルに活用できるシステムの要件
 - StatPro (世界で250社の運用会社が採用)

<p>機能面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語・英語OSに対応 ● 出力帳票の日本語・英語対応 ● コンポジット・リターン多通貨対応 ● 複数ファーム管理機能 ● 大量のコンポジット・リターン計算処理が可能 ● NAM全拠点(日米欧亜)で共通基盤へアクセス <div style="text-align: right;">   </div>
<p>サポート面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 24時間サポート体制 (シドニー、ロンドン、ボストン、ケープ・タウン、フランクフルト等) ● グローバル危機管理体制 (バックアップサーバー: トロント、ロンドン) ● 5年毎に改定されるGIPSルールに対応 ● ユーザー・ミーティングから新たなニーズを取り込みフリー・バージョンアップを行う

- 運用総資産の確定



V. GIPSの活用と今後の展開

V-ii. GIPSの活用と今後の展開

野村アセットマネジメント・部門会社一覧

野村アセットマネジメント・グループ	1.	Nomura Asset Management Co., Ltd.
	2.	Nomura Asset Management U.S.A. Inc.
	3.	Nomura Global Alpha LLC
	4.	Nomura Asset Management U.K. Limited
	5.	Nomura Asset Management Hong Kong Limited
	6.	Nomura Asset Management Singapore Limited
	7.	Nomura Asset Management Malaysia Sdn. Bhd.
	8.	Nomura Islamic Asset Management Sdn. Bhd.
	9.	Nomura Asset Management Deutschland KAG mbh
その他AM部門会社	10.	Nomura Fund Research and Technology Co., Ltd.
	11.	Nomura Fund Research and Technology America Inc.
	12.	Nomura Corporate Research and Asset Management Inc.
	13.	Private Equity Funds Research and Investments Co., Ltd.
	14.	Nomura Bank Luxembourg S.A.

- NAM Groupからアセット・マネジメント部門へ

GIPS準拠

ノムラ・アセットマネジメント部門
(NFRT, NFRTA)

NAM Group
9社

(NCRAM, PEFRI)

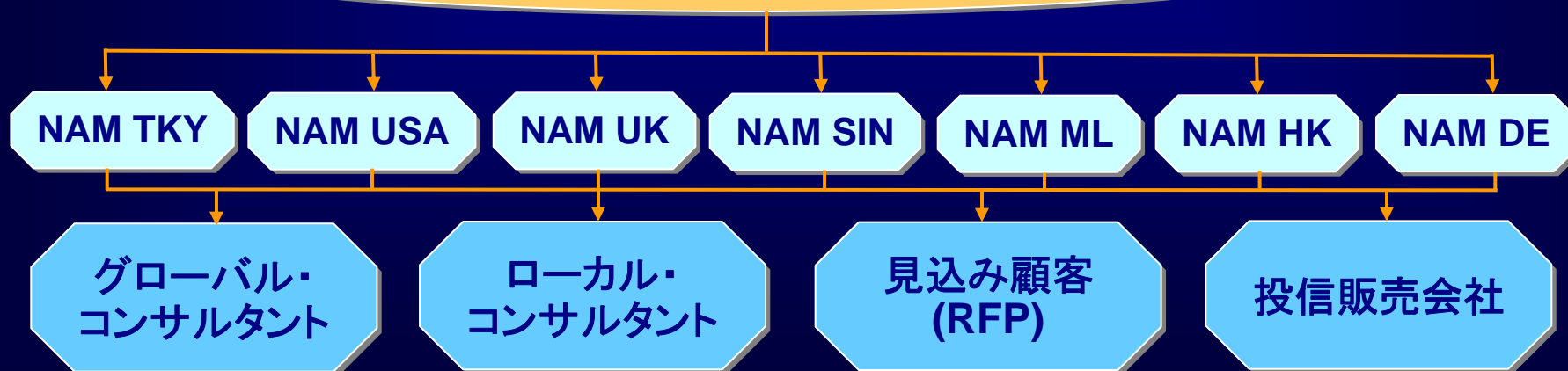
V-iv. GIPSの活用と今後の展開

Step:

1. データ供給と提供業務を一体化し業務効率を上げる
2. GIPSデータ活用の促進
3. グローバル・RFP・ライブラリーの構築 = コンサルタント向け(eVestment, GIMD等)
4. ワールド・クラスの運用会社

Global RFP Database Library (投資顧問企画部)

GIPS



GIPSグローバル化の次の展開は ワールドクラスへの礎

- グローバル商品戦略
- グローバル商品ブランド力
- グローバル商品プラットフォーム

グローバル・ファーム⇒ワールド・クラス

当資料は、当社が信頼できると判断したものに基づいて作成しておりますが、これらは過去のものであり、将来について、保証するものではありません。尚、本資料のいかなる部分も電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。

NOMURA

